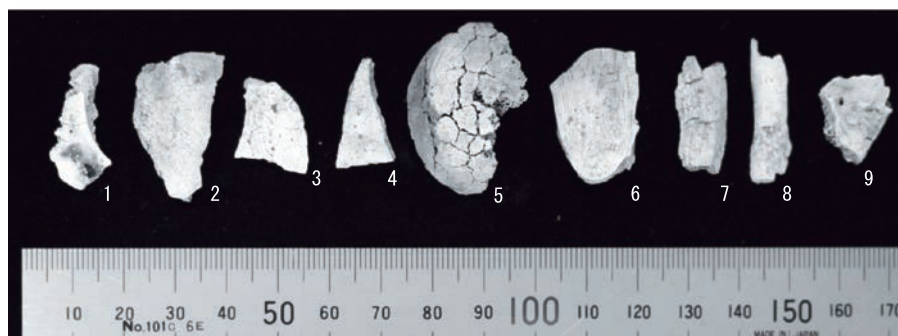


Collection from Human Skeletal Remains. 206p. Arkansas Archeological Survey.
Krogman, W. M. and Iscan, M. Y. (1986) The Human Skeleton in Forensic Medicine. 551p. C.C. Thomas.



第25図 観音堂から出土した人骨

1-4.頭蓋骨 5.上腕骨あるいは大腿骨 6-8.四肢骨 9.部位不明

第3節 観音堂出土炭化材の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

（1）はじめに

南相馬市小高区泉沢に所在する観音堂の発掘調査で出土した炭化材の樹種同定を行った。なお、同じ試料で放射性炭素年代測定も行っている。

（2）試料と方法

試料は、D区南北サブトレの0d層から出土した炭化材1点（遺物番号：KND 炭化材）である。樹種同定は、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柃目）について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（日本電子（株）製 JSM-5900LV）にて検鏡および写真撮影を行なった。

（3）結果

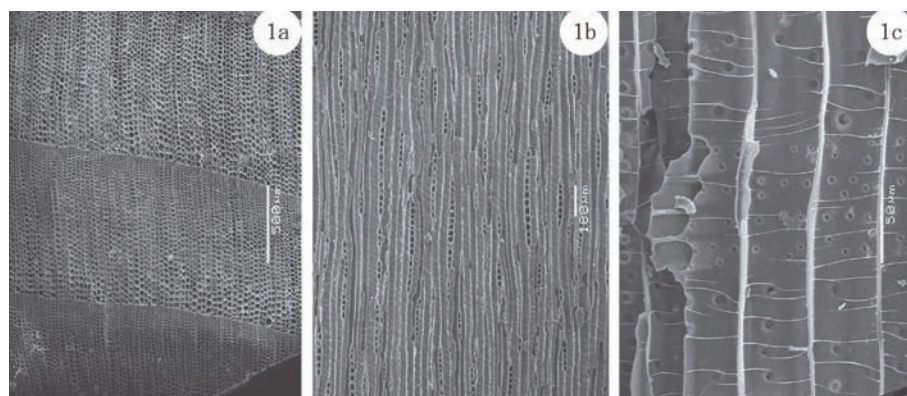
同定の結果、針葉樹のカヤ1分類群であった。

次に、同定された材の特徴を記載し、第26図に走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1)カヤ *Torreya nucifera* (L.) Siebold et Zucc. イチイ科 第26図 1a-1c(No.1)

仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、1～5細胞高である。分野壁孔は小型のヒノキ型で、1分野に2～4個みられる。また、仮道管の内壁には2本1対のらせん肥厚がみられる。

カヤは暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材は比較的重硬で弾力性に富み、切削等の加工は容易で、水湿によく耐える。



第26図 出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. カヤ(No. 1)

a:横断面、b:接線断面、c:放射断面